

日本産業衛生学会東北地方会ニュー
ス

みちのく

No.60

12/28

2018

発行／平成 30 年 12 月 28 日・発行所／日本産業衛生学会東北地方会事務局
住所／〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内）
電話／022-717-7874・FAX／022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人／黒澤 一

第 77 回日本産業衛生学会東北地方会のご報告

平成 30 年 7 月 27 日(金)から 28 日(土)にかけて、メインテーマ「変化する産業保健と未来」(黒澤一地方会長)と題して、第 77 回日本産業衛生学会東北地方会が開催されました。紙面を借りて報告させていただきます。

27 日は事業所見学・川上理事長と語ろう・懇親会が開催されました。事業所見学は 34 名の参加を頂き、利府町の JR 東日本の新幹線総合車両センターを訪れました。JR 東日本・北海道唯一の総合車両センターで、日常整備から、走行 120 万キロごとに主要部品を分解整備し、ほぼ新車の状態として組み立て治す全般検査まで行う工場です。高度にシステム化された工場における安全衛生の取り組みに関して多くを勉強させて頂き、有意義な事業所見学となりました。

その後は ANA ホリデイイン仙台に移動し、川上憲人学会長(東京大学精神保健学・精神看護学教授)に御参加頂き、産業衛生学会のあり方、先生のご専門であるストレスチェック、男女参画などについてディスカッションを行いました。その後に開催された懇親会では総勢 51 名の会員に参加頂き、おいしいお酒を頂きながら懇親会を行いました。余興として、利き水大会を行いました。8つの銘柄中3つを主催者の黒澤会長が自ら当てて優勝してしまうというハプニング(?)もありました。

28 日は 91 名の参加を頂き、東北大学医学部開設百周年記念ホール星陵オーディトリウム講堂にて一般演題発表、役員会、総会、特別講演、分科会を行いました。一般演題は全部で 11 例の発表を頂きました。各県から若手の先生方中心に今後の発展が期待される発表を頂きました。

特別講演は信州大学の野見山哲生先生に「産業保健の現状の課題と学会の役割」と題して、メンタルヘルスやリスクアセスメント等への対応、中小企業の問題、行政・産業界・学会の連携のありかたなどについて、ご講演頂きました。分科会では産業医・看護・技術・歯科保健の各部会に分かれ討論が行われました。産業医部会では北里大学の江口尚先生をお招きし、「療養・就労両立支援指導料の活用から医療と職場で支える仕事と治療の両立支援を考える」と題して、また、看護部会では YKK-AP 株式会社の佐々木久美子先生から「地域・職域連携の良好事例」と題してのご講演もいただきました。

共催いただきました宮城県・仙台市。東北大学医師会、事業所見学にご協力頂いた JR 東日本の森先生、座長を務めて頂きました皆様、その他多くの会員に深く御礼申し上げます。

(文責：第77回日本産業衛生学会東北地方会事務局長 大河内眞也)

第 78 回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項（第一報）

学会長：坂田 清美 岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座 教授

次年度の第 78 回日本産業衛生学会東北地方会は、岩手県（盛岡市）での開催となります。
詳細は、2019 年 5 月発行の「みちのく」にてご案内いたします。

会期：2019 年 7 月 26 日（金）～27 日（土）

会場：一般財団法人 岩手教育会館（〒020-0022 岩手県盛岡市大通一丁目 1 番 16 号）

URL：<http://www.i-kaikan.jp/index.html>

7 月 26 日（金） 事業所見学、懇親会

7 月 27 日（土） 午前：一般演題

役員会

午後：総会、特別講演、各部会

事務局：岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座（担当：田鎖愛理、佐々木弓枝）

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1

TEL: 019-651-5111（内線 5775） FAX: 019-908-8008

（その他の行事予定 東北公衆衛生学会 2019 年 7 月 26 日）



岩手山（撮影：第 78 回大会長）

平成 30 年度日本産業衛生学会東北地方会選挙結果のご報告

代議員選挙は、有権者数 246 名、投票者数 220 名、投票率 89.4%と多くの会員にご参加いただきました。9 割近い投票率は他支部を圧倒しており、東北地方会の高い結束率を示すものと思われました。

選挙結果は以下の通りです。代議員・理事を務めて頂く期間は 2019 年度-2020 年度の二年間となります。欠員が生じた場合は次点の候補者に御担当いただくこととなります。

代議員当選者 25 名（五十音順、敬称略）

荒川梨津子、井川資英、色川俊也、岩田豊人、大河内眞也、小川浩正、各務竹康、河合直樹
清治邦章、黒澤一、黒田真理子、斉藤慶史、坂田清美、菅原保、田鎖愛理、立身政信、千葉敦子
中屋重直、野村恭子、福島哲仁、村越亜弥子、村田勝敬、森洋、安村誠司、吉田稔

（次点 漆山裕希、竹澤公子）

理事 2 名（五十音順、敬称略）

黒澤一、福島哲仁（次点 菅原保）（理事は代議員の中からの互選）

東北地方会選挙管理委員長 大河内眞也

第29回日本産業衛生学会全国協議会_開催概要

1. 学会名称 第29回日本産業衛生学会全国協議会
2. 開催テーマ “働きたい”を支える産業保健
3. 会 期 2019年 9月12日（木）・13日（金）・14日（土）
4. 会 場 仙台国際センター（会議棟）
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL:022-265-2211（代表）
5. 企画運営委員長 黒澤 一
（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野 教授）
運営実行委員長 菅原 保
（医療法人健友会 本間病院院長）
6. 参加予定者数 約1,000名
7. プログラム（予定）
自由集会、基調講演、シンポジウム、事業所見学、
幹事会、教育講演、ポスターセッション、市民公開
講座学、その他

8. 学会事務局

東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

TEL:022-717-7874 FAX:022-717-

7883

E-mail:

sendai-kyougikai@doh.med.tohoku.ac.jp

9. 運営事務局

(株)JTB 仙台支店 内

〒980-0804 仙台市青葉区大町1-4-1

明治安田生命仙台ビル4F

TEL:022-263-6716 FAX:022-263-7481

E-mail:sanei2019@jtb.com

第29回

“働きたい”を支える産業保健

日本産業衛生学会全国協議会

2019年9月12日(木)～9月14日(土) 会場:仙台国際センター

企画運営委員長 黒澤 一(東北大学教授 日本産業衛生学会東北地方会長)
運営実行委員長 菅原 保(医療法人健友会 本間病院院長)
主催 日本産業衛生学会 東北地方会
共催 産業保健部会、産業保健部会、産業保健科保健部会、産業衛生技術部会
後援 宮城県医師会、仙台市医師会、東北大学医師会
協賛 宮城県、仙台市、宮城労働局、宮城県産業保健総合支援センター、東北大学大学院医学系研究科



※:山形県

産業医部会**産業看護部会****第 22 回 産業医協議会 開催報告**

産業医部会幹事

菅原保

(医療法人健友会 本間病院)

各務竹康

(福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座)

本年度の産業医協議会は「医療と職場で支える両立支援」をテーマとして開催いたしました。労働人口の高齢化等に伴い、治療と仕事の両立支援は産業保健上重要な課題となっております。平成 28 年 2 月には厚生労働省から「治療と職業生活の両立支援ガイドライン」が公表され、平成 30 年 4 月の診療報酬の改定で、がん患者を対象に療養・就労両立支援指導料及び相談体制充実加算が新設されました。この流れを受け、今後医療機関と産業医の連携がより重要になると考えられます。講師として長年両立支援の研究に取り組んでおられる江口尚先生(北里大学公衆衛生学)をお招きし、「療養・就労両立支援指導料の活用から-医療と職場で支える仕事と治療の両立支援を考える」として、基調講演をいただきました。両立支援の現状および課題から、実際の診療報酬査定の流れまで、わかりやすく説明をいただきました。その後、誠治邦章先生(花京院診療所)から実体験に基づいた問題提起等について指定発言を頂いた後、全体討論を行いました。制度が始まったばかりで我々も不勉強な中、活発な議論を通して両立支援について理解が深まったものと思います。

産業看護部会 部会報告

千葉敦子

(青森県立保健大学 看護学科)

「産業看護とは、事業者が労働者と協力して産業保健の目的を自主的に達成できるように、事業者・労働者の双方に対して看護の理念にもとづいて組織的におこなう、個人・集団・組織への健康支援活動である」

これは、日本産業衛生学会産業看護部会が 1991 年に出し、2005 年に修正された産業看護の定義です。修正から 10 年以上が経過しました。現在では、健康経営、働き方改革等々、労働の在り方が問われており、産業看護を取り巻く情勢は大きく変化しています。これらに呼応し、看護基礎教育の見直しや産業保健看護分野の科目や実習を増やす動きも活発になってきています。このような中で、看護部会では、産業看護の定義を見直すことを検討しています。働く人々の健康を守るために産業看護職に求められる役割は何でしょうか。東北地方会の部会員の皆様には、これらの動きをタイムリーにお伝えしたいと思っています。地方会のホームページや各県の運営委員の方々を通じて最新情報をお届けするよう努力いたしますので、今後ともよろしく願いいたします。

また、2019 年 9 月には第 29 回日本産業衛生学会全国協議会が仙台で開催されます。ボランティアスタッフなど多くの部会員のご協力が必要になります。2015 年に開始された産業保健看護専門家制度は、登録や更新の条件に社会貢献が求められており、学会ボランティア等の業務は、産業保健看護職の社会貢献に該当する活動です。近くなりましたらご案内いたしますので、ご応募・ご協力をよろしく願いいたします。

産業衛生技術部会

河合環境コンサルタント事務所

部会代表

河合直樹

産業歯科保健部会

山形県米沢市

レインボー歯科医院 院長

安藤栄吾

第29回全国協議会に向けて

本年度の産業技術部会は8名参加（昨年度比2名増）のもと、地元宮城県で活躍しておられる労働衛生コンサルタント 花上恭二氏から、有害性の少ない溶剤への代替による環境改善の事例報告をいただきました。代替は優先度の高い抜本的な対策ではあるものの、物質選定の難しさやコストの問題などから現実的には、なかなか実現が難しい中、シルクスクリーンのはしょく作業において、大量のアセトンを使用していたのを第3種有機溶剤であるミネラルスピリットに代替し成功した事例が紹介されました。その後は、お茶菓子をつまみながら、メンバーからの近況報告とフリートーキングで、活発な意見交換を行いました。その中で、2019年9月に仙台市での開催が決まっている全国協議会における産業衛生技術部会の企画について、親部会から、地元事業所の方3人くらいから産業衛生技術に関する「現場での実践報告」のような話題を提供してほしいとの要請があることを紹介、対応について協議を行いました。地元宮城のコンサルタント会支部、産業保健総合支援センター、労働基準協会などと連携し、情報を収集することとしました。

歯科部会には宮城県より2名、山形県より1名の合計3名の労働衛生コンサルタント（保健衛生）の資格を持つ歯科医師が参加した。自己紹介の後、近況の報告と協議に入った。

報告では、山形県で昨年度より特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者と酸素欠乏危険作業主任者、有機溶剤作業主任者講習会の講師を2名の歯科医師が山形県労働基準協会連合会から日本歯科医師会を通じて依頼されたことや酸蝕症の特殊歯科検診を担当している事業所から労働衛生コンサルタントとして2ヶ月に1度の職場巡視を依頼されたことなどが報告された。

協議では、今後の活動指針について話し合いがなされた。現在、労働衛生コンサルタントの資格を持つ歯科医師の多くが、労働衛生コンサルタントとして活動しておらず、資格が生かされていない状況を改善していくために何をすべきかが話し合われた。話し合いの中で歯科医師ができる労働衛生の分野での業務が、産業医をはじめとする他の職種の人たちに周知されていないことが最大の問題であり、歯科医師ができることを積極的に情報発信していくことが重要であるとの結論に達した。今後は所属している労働安全衛生コンサルタント会等を通じて人脈を広げると同時に、いつ仕事を依頼されても受けられるように研鑽を積んでいくことを確認して盛会のうちに幕を閉じた。

産業看護とうほく

第 35 号 2018.12

発行者: 日本産業衛生学会
東北地方会 産業看護部会
連絡先:
〒030-8505 青森県青森市
大字浜館字間瀬 58-1
青森県立保健大学 看護学
科 千葉敦子
発行責任者:
千葉敦子・村越亜弥子

「第 25 回産業看護のつどい」ご報告

2018 年 7 月 28 日（土）に第 77 回日本産業衛生学会東北地方会が仙台市で開催されました。今回のメインテーマは「変化する産業保健と未来」で一般口演、特別講演が行われ、多数のご参加をいただきました。

第 25 回産業看護のつどいでは YKK AP 株式会社 東北製造所に保健師として勤務されている佐々木久美子先生に「地域、職域連携の良好事例」をテーマにご講演いただき、地域・職域での 30 数年に渡る産業保健活動をご紹介していただきました。

以下抜粋した内容を記載いたします。

産業保健師コアバリューとして以下 3 つがあり

1.コンプライアンスは法規にもつづき完全に遂行しなければならない業務で企業の存続に不可欠→完全に遂行しなければならないため産業看護職の業務として会社から理解を得られやすい。2.ヘルスプロモーションは健全な労働力維持・増進のための業務で企業の成長に不可欠→ヘルスプロモーションはすぐの結果は得られないが将来健康障害が発症することにより労働力低下による生産性低下となるため会社の損失に影響が大きい。いつまでも健康状態を維持するためには日ごろの生活習慣が大切である。3.リスクマネジメントは危機を回避するための業務で企業の安定に不可欠。看護職だからと専門だけ対応できればよいだけでなく会社の方針、経営状態、昨今の経済状況の情報収集しておく必要があると考える。

また社員との信頼関係を形成し産業看護職が必要と認識される上で大切なことは

- ◎「科学的根拠に基づき中立的な立場で」
 - ◎「依頼されたことは誠実に最後まで対応する」
 - ◎「今の会社の状態を把握し会社から何を求められているのか敏感に情報収集し対応する」
- 佐々木先生の長きにわたる業績は講演会の時間内ではとてもお伺いできませんでしたが、データ分析、プレゼンスタイルなども含めとても内容の濃いお話しで日々業務に追われている私たちにエールを送っていただいた感じがしました。今後も後輩の育成のためご指導いただきたいと思っています。

各県の産業看護部会活動報告

【青森】青森産業保健支援センター主催産業看護者研修実施：「メンタルヘルス事例検討会」、「働く女性の健康管理のポイント」、「保険事業のまとめ方と活用方法（評価のための統計技術の基礎）実習」、治療と仕事の両立を目指してチームを結成し働きかけを進めている。

【秋田】「6月に行われた秋田産業保健総合支援センター研修会「職場で取り組むアルコール（各種依存）対策について」を受講前に秋田産業保健会を行い、職場のメンタルヘルス不調者事例や各職場のアルコール対策について活発な意見交換を行った。

【山形】産業保健総合支援センター：山形産業保健総合支援センターに常勤保健師1名配置。研修会：産業医学研修会（ケーススタディ）「労災認定に関する行政基準と司法の判断」、「職場巡視の実際」、メンタルトラブルの早期発見とその対応研修会「労働者の心の健康に関する現状」、「部下をダメにする上司イレブン（こんな上司が部下をダメにし、うつに追いやる）」、「トラブルの早期発見」、「傾聴のための技法体験（積極的傾聴法）」、「エリートのためのストレスコントロール則コントロール法」、リーダーのためのラインケア研修会：「4つのケア」、「体験で学ぶコミュニケーションのコツ」、「ストレス解消法～マインドフルネス」。

【岩手】平成29年度（第2回）産業看護職研修会～兼産業看護職の集い：参加者30名弱。「治療と職業生活の両立支援の実際」、「障害者職業支援の実際」、平成30年度産業看護職研修会：健康教育を効果的に実施する方法～企画・プレゼン技術について～。

【宮城】

為になる産業保健勉強会開催：第132回「ストレスチェックについて」、第133回「産業保健スタッフのための過重労働対策セミナー」、第134回「健康と生産性の関連からみる健康経営」、第1回 就労支援セミナー 主催：東北労災病院治療就労両立支援センター、「がんになっても働き続ける」、※産業保健研修 「休職と復職を繰り返している社員への対応」。

【福島】福島産業看護研究会（インテル）2ヶ月毎に勉強会継続中。2018年度テーマ「新たな視点で健康支援を考える」会員12名（福島市中心に）。3/8「転倒防止のためのロコモ予防について」、5/10「大原総合病院見学会」、7/12「神経内科よもやま話」、「乳がん検診の現状と高濃度乳房（デンスブレストへの対応について）」情報共有。

福島産業看護協議会：会員数40名、7/4産業看護職能向上講座（前期）「職場巡視のポイント（産業看護職としての視点）」、「安全衛生委員会での報告の仕方」

福島産業保健総合支援センター研修：若年労働者向けメンタルヘルス研修会、長時間労働者の健康管理工夫事例検討会。

編集後記：今年は各地でいろいろなことが起こりました。平成最後の年、1日1日大事に過ごしていきたいなあと思いながら過ごしている今日この頃です。 宮城県：櫛田

会員の異動(平成30年5月から平成30年11月)

■青森県

新入会 高満 幸宜
(高満歯科医院)
転出 中村 美徳
(栃木県へ)

■岩手県

新入会 萩野 とも子
(岩手県産業保健総合支援センター)
 觸澤 史江
(アステラス製薬(株)健康管理室)
転出 佐藤 利夫
(北海道へ)
退会 角田 文男

■宮城県

転入 兵 行彦
(東京都から)
新入会 堀内 由美
(石巻赤十字病院)
 山本 夏男
(仙台市太白区保健福祉センター)
 松村 賢
(まつむら歯科クリニック)
 後藤 豊美
(日通商事(株)仙台支店)
 及川 敦子
(全国健康保険協会 宮城支部)
 大内 みやこ
(宮城県大崎保健所)
 中村 剛
(東北大学環境・安全推進センター)
 白井 昭雄
(ララガーデン長町歯科診療室)
 木村 裕香子
(独立行政法人労働者健康安全機構宮城産業
保健総合支援センター)
 森 憲一
(宮城環境管理株式会社)
転出 堤 祐介
(埼玉県へ)
退会 佐藤 雅俊
 坪谷 透
 長谷川 洋子

■山形県

転入 北林 蒔子
(東京都から)
新入会 今田 恒夫
(山形大学大学院医学敬虔休暇
公衆衛生学・衛生学講座)
 水元 麻美
(医療法人 健友会 本間病院)
 中村 翔
(山形大学医学部附属病院)

■福島県

転入 佐伯 和子
(北海道から)
新入会 小松 有紀
(白河オリンパス株式会社)
 遠藤 高
(医) 高春会 遠藤クリニック)
 佐藤 陽香
(福島県北保健福祉事務所)
 太田 昌一郎
(福島県立医科大学看護学部)
転出 佐伯 和子
(兵庫県へ)
退会 阿部 泉

編集後記

平成30年の仕事納めの日に編集後記を書いております。本来でしたら12月中に発行するべきみちのくですが、年を跨いで発行になってしまうことをご容赦頂ければ幸いです。

来年には激動の平成が終わり、新元号が始まります。世界情勢が激変していく中で、産業衛生の役割は、日本の将来のために、ますます重要な課題となっていくことは明らかです。そのような中で、新元号になって初めての日本産業衛生学会全国協議会が仙台で開催されます。東北地方会の皆様方にはいろいろとお願いすることもあるかと存じますが、なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

最後に、本年もご協力をいただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。新時代(?)も何卒よろしくごお願い申し上げます。(S.O)